

■学校経営のポイント

ICTを活用した教育活動と働き方の改善

小島 宏

Society5.0が提唱され、技術革新が急速に進む情報社会にあって、学校はどのように対応すべきかが喫緊の課題になっている。このことについて、見通しを持ち、構想し、着実に実行していくことが、「今」求められているのである。

GIGAスクール構想の理解

そこで、まずは、文科省の「GIGAスクール構想」について理解する必要がある。

- GIGAスクール構想：児童生徒向け1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す構想。
- 目的1：多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。
- 目的2：教職員の業務を支援する「統合型校務支援システム」の導入により働き方改革を実現する。

校内LANの活用

ネットワーク環境を整え、動画教材を使った授業や遠隔授業などが一部の学校で試行されているが、今後は教育委員会とも連携し、全ての学校で効果的に実施していくことが求められる。その際、ゼロからのスタートではなく、先行事例に学び、自校に合った実践を工夫していくことが肝要である。

学習者用PCの導入

使いたい教材やソフトウェアが活用しやすい学習者用PCの導入が必要である。文科省が例示している「標準的な仕様」を参考に、国や教育委員会の予算や、学校の実情に合わせて対処したい。

学習ツールのクラウド化

子供が使うツールは、事前にPCにインストールしたソフトウェアに加え、Webブラウザ経由のクラウド型

のアプリケーションを導入したい。

具体的には、「主体的・対話的で深い学び」に活用できる「協働学習支援ツール」や「グループウェア」「ファイル共有」「プレゼンテーションソフト」「文書作成ソフト」「表計算ソフト」などがあり、効果的な利活用が課題である。

ICTの活用

学習指導要領では、ICT化対応を意識して「情報活用能力の育成」や「ICTを活用した学習活動の充実」を求めている。

学校としての方針と具体的な内容・方法を指導計画に位置づけ、共有化し、「子供の学習に効果があるか」を判断基準にしてICT活用の効果などを確認し、改善していくようにしたい。

体験活動や対面授業との調和

なお、ICTの活用は、効率的な知識・技能の習得だけに偏ることのないよう留意したい。観察・実験、見学・調査やインタビューなどの体験活動、子供と教師の対面授業との調和を図り、子供に身に付けさせたい資質・能力の育成(知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養)に生かすことが大切である。

校務のクラウド活用による働き方改革

文科省は、クラウド活用により校務分掌(教務、学籍、学校事務など)を一括管理する「統合型校務支援システム」の運用を想定している。

このことによって、業務の効率化や負担軽減ができ、打ち合わせ時間が短縮され、子供と向き合う時間の確保、教材研究や準備をする時間の確保などが図れるという効果が期待できる。働き方改革の視点からもICTの活用を積極的に進めたい。

(こじま・ひろし=元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●どうしたら子どもの自殺を止められるのか 《12月19日発売 予約受付中!》

教師にできる自殺予防——子どものSOSを見逃さない

高橋聡美(中央大学客員研究員/元防衛医科大学教授)【著】A5判/定価(本体1,800円)+税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

